

富士山静岡空港の収支の概要

(文化・観光部空港振興局)

1 要 旨

富士山静岡空港は、道路や港湾と同様、県勢発展に不可欠な社会資本として整備したものであり、空港の利用が県民の利便性向上や経済活動に寄与できるよう利活用促進に努めている。

平成22年度から、空港収支に係る情報の透明性を確保する観点で、国に準じて公表している空港管理運営の収支について、平成25年度の状況を取りまとめたので報告する。

2 概 要

(1) 空港管理運営に係るキャッシュフローベースの収支

- ・着陸料等収入額は1億4千7百万円となったのに対して、空港の管理運営（人件費を含む）に係る支出額は6億6千5百万円となり、収支差額5億1千8百万円は一般財源を投入している。
- ・一般財源投入額は、平成24年度決算に比べて、2千万円減少したが、この主な要因は、事務所運営費等の効率的執行や国内線の増便に伴い着陸料収入が増加したこと等による。

(単位：百万円)

区 分	25年度 a	24年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収 入	1 4 7	1 3 9	8	6%
支 出	6 6 5	6 7 7	△ 1 2	△ 2%
収 支	△ 5 1 8	△ 5 3 8	2 0	4%

(2) その他の収支の試算

空港管理運営に係る企業会計の考え方を取り入れた収支、また、空港管理運営及び空港整備に係る収支の試算結果は別紙のとおり。

(3) 今後の取組

安全・安心の確保を前提に可能な限り管理運営に係る支出の削減に努めるとともに、増便や就航路線の拡大による着陸料収入の増加、未利用土地の活用等による収入確保に取り組むことで、収支の改善に努めていく。